

平成30年8月1日

地域密着型サービス運営推進会議報告書兼議事要旨

厚生労働省令第34号（平成18年3月14日）第108条の規定に基づき、平成30年7月17日に運営推進会議を開催したので、その記録を作成し、これを公表します。

千葉県長生郡白子町幸治3079番地3

設置主体) 株式会社 相生

代表者) 代表取締役 萩原 将之

事業所及び事業主体の概要

【事業所】 ゆうなぎ九十九里

(認知症対応型共同生活介護 通称：グループホーム)

(介護保険事業所番号) 1275900213

(所在地) 〒283-0102 千葉県山武郡九十九里町小関2316番地1

電話0475(70)7333 FAX0475(70)7335

(開設年月日及び共同生活住戸と利用定員)

平成17年10月 1日開設、利用定員9人(一番館)

平成23年 4月 1日開設、利用定員9人(二番館)

【事業主体】

〒299-4216 千葉県長生郡白子町幸治3079番地3

(商号) 株式会社 相生 (かぶしきがいしゃそうせい)

(代表者) 代表取締役 萩原 将之

電話0475(36)5711 FAX0475(36)5712

運営推進会議の概要

日 時：平成30年7月17日 13時30分から14時35分

会 場：当ホーム二番館のリビング

出席者：運営推進会議の構成

当ホーム

- ・ 計画作成担当者 内山 貴司（二番館担当、介護支援専門員）

委員

- ・ 地 域 住 民 2名（近隣の住民）
- ・ ちどりの会（ボランティア団体） 2名
- ・ 当町健康福祉課職員 1名
- ・ 当町地域包括支援センター 1名

（議題）

1. 入居者情報
2. ゆうなぎかわら版の内容について
3. 入居者について

(議事要旨)

前回の運営推進会議（5月17日）から今日までの施設や入居者の様子について、説明を行う。また、『ゆうなぎかわら版6月号、7月号』の解説を行う。

1. 入居者情報 平成30年7月15日現在

一番館：男性2名 女性6名 小計8名

二番館：男性6名 女性3名 小計9名

計17名・うち九十九里町内の入居者は11名

内山) 入居者の退去等のため、一番館については、入居者数が前回の会議時よりも1名減少している。被保険者数については、前回と同様に変動はない。入居者の年齢区分であるが、現在85歳～89歳が5名、90歳以上のが5名（計10名）であり、半数近くをしめている。90歳以上の方でも2階の居室を利用されている等、自立度が高い入居者もいる。また介護度においては、要介護3の認定を受けた方が、両館で計7名と最も多い状態である。※資料を読み上げながら、説明。

2. ゆうなぎかわら版の内容について

今回は6月号・7月号の内容を説明する。

内山) 6月号の一枚目では、入居者の日中の様子を掲載している。2枚目は、5月30日に実施した防災訓練の様子である。7月号では、6月30日に開催した『家族会』の様子を掲載している。家族会では、ボランティアの方々に歌や踊りを披露して頂いた。また6月には4名、7月には1名の入居者の誕生会を行った。

委員) 当町の入居者が多いとのことだが、家族会にはどれくらいの家族が来たのか。

内山) 今回は4組が参加をされた。開催については、1ヶ月程前から「かわら版」等を用いて伝えている。

職員) 入居者の退去や入院等もあり、今回は参加できる家族が少なかったと思われる。

委員) 遠方の家族も来るのか。

内山) 大阪在住の姉妹がある入居者がいる。毎年、家族会とクリスマス会に参加されている。

委員) 5月に防災訓練を実施したとのことであるが、職員は何名で訓練をしたのか。

内山) 昼間に火災が(台所より)発生した想定で、各館3名ずつの職員を配置して実施した。なお、当日体調不良の入居者については、訓練の参加を見合わせた。

委員) 訓練時であれば職員は多いが、職員が少ない場合の避難については、検討をしているのか。

内山) これまで、夜間帯を想定しての訓練も実施している。その場合、2名の夜勤者で、火災が発生した館から避難をさせる訓練であった。

委員) 地震発生時の訓練は実施しているのか。

内山) 実施していない。

委員) 前回の会議で、花火の音を、壁を叩いている音だと思い、混乱をしていたという入居者の話を聞いた。地震のように急な揺れ・音があった際に、混乱をしてしまうのではないか(訓練が必要ではないか)。

内山) 7月7日の夜間に地震が発生した際、夜勤者が巡回をして確認をしたところ、特変なく休まれていたとの報告を受けている。しかしこの件とは状況が異なるが、数年前に、私が、この二番館の夜勤業務中に、地震が発生、揺れが収まるのを待ち、全居室を確認。テレビにて津波の襲来はないと把握した後に、一番館の様子を見に行くと、職員が避難をするために、数名の入居者を起こしている最中であった。私は、津波襲来の心配がないと伝えて、二番館の業務へ戻った。特に夜間の地震発生時の対応について、再度検討していく必要があるのかもしれない。

委員) 地震発生時の避難も重要ではあるが、建物(施設)の耐震強度を把握しておくことも、大切であると思う。以前私は、家の地盤の状態も含めて調査をしてもらったことがある。耐震強度が分かったからといって、「絶対に大丈夫」はないと思うが、避難をするひとつの目安になるのではないかと思う。施設であれば、補強等をする際にも補助がでるのではないだろうか。それらも含めて、今後検討をしてみてもどうか。

3. 入居者について

会議中に入居者が職員と一緒に外出をした。毎日決まった時間に出かけていることを話す。

委員) お盆やお正月などに、外出（外泊も含む）をされる方はどれ位いるのか。

内山) 以前は「もうすぐ彼岸だから、墓の掃除がしたい」と言われる入居者もあり、家族に了解を得て職員と一緒に掃除に行く時もあった。また、年末年始に自宅へ戻られる方もいたが、現在はほとんど外泊をされる方はいない。

委員) 1日～2日程度なら家で過ごしても、とってしまうのだが。

内山) 入居者は、家族と一緒に生活することが困難であるため、施設に入居している方が大半である。また、職員には伝えにくいことも、家族には言える場合がある。その訴えに家族がうまく対応できずに、困惑をしている場面を実際に見たことがある（職員が間に入り、訴えは軽減したが）。家族には仕事等の日々の生活のリズムもあるため、数日の外泊でも大変であると考えてしまうのかもしれない。自ら「帰る」と言われ、外に出る入居者もいるが。

委員) 施設にいるほうが、穏やかに過ごせる場合もあるのではないか。「ここにいてもいいんだ」と入居者が思えば、出て行くことはなくなるのではないだろうか。

内山) 「ここはつまらない。私は寂しいださあ。帰る」と訴える入居者がいる。この方は、入居者同士、よく会話をされており、明るい性格に見える。しかし、訴えの奥底にあるのは「他の入居者の家族は来ているのに、私の家族は誰も来ない。」という思いであり、それが「寂しい」という言葉に集約されているのではないか。現在は、様々な働きかけをしており、以前よりも訴えは軽減しているように思われる。また、入居者間の関係性（よく話をする人や、入居者同士の間柄等）を把握して、ケアに生かしていくことも重要であると考えている。時折「私は部屋に行く。何も食べたくないよ」と不穏になられる入居者がいる。しかし、他の入居者とともに居室にてテレビを観て、談笑をしている間に、不穏であったのが徐々に緩和される場合がある。このように職員の声かけよりも、入居者同士で話をした時のほうが、効果的な時もある。それらについて、職員が把握をするためには、例えば介護記録についても「不穏とな

り、部屋に行った。」ではなく、より詳細に記録をして情報を共有し、日々の業務に望むことが求められると考えている。

委員) 施設での食事の時間はある程度決められており、全員で一緒を取っていると思う。先ほどのような時には、どのように対応をしているのか。

内山) 職員の話の話を全く聞いてもらえない時には、その時に無理に食事を取ってもらうことはせず、時間を空けて、居室に食事を運ぶ等の対応をしている。不穏状態がそれ以上強くなることのないように、食事を取ることを強く促すような声かけはしないようにしている。

最後に次回の運営推進会議の開催日を平成30年9月18日の13時30分からと決し、散会した。

以上

本件のお問合せ先

グループホーム ゆうなぎ九十九里

内山 貴司

電話 0475-70-7333